

西来寺報

二〇一四年 秋
第十五号

西来寺の梵鐘

ご存じの方も多いかと思います
が、今年の春に、横須賀市の指定重
要文化財に西来寺の梵鐘が指定され
ました。その梵鐘について、少し紹
介させていただきます。

梵鐘

高さ147センチ、口径76セン
チ。第二次世界大戦のとき、近くに



陸軍があつて軍から供出を依頼され
たが、郷土史家の赤星さんらのご尽
力により供出を免れた。

当時、慶長以前の鐘は供出しなく
て良いとされていたが、西来寺の鐘
は元禄九年のものであつたため供出
対象となつていた。しかし、西来寺
の鐘には西来寺の歴史が克明に刻ま
れていたため、貴重な資料と判断さ
れ、なんとか供出を免れることがで
きたのだ。

一九四九年三月二十九日の大火災
の際は多くのものが焼けてしまつた
が、本堂から離れていたことと、そ
の日はほぼ無風状態だつたことによ
り、梵鐘は奇跡的に焼けずに火災を
乗り切り、今も残っている。

なお今の鐘撞き堂は平成になつて
建て替えられたものだが、それ以前
の鐘撞き堂の絵が画家の飯塚慶一氏
の手により残っている。ちなみに屋
根は瓦だつたようです。

喚鐘

喚鐘とは本堂の軒先や堂内の外陣
に懸けて、法会などの時に合図のた
めに用いる鐘で、半鐘ともいう。

こちらは戦争中に供出された。戦
後茅ヶ崎の日蓮宗のお寺に誤送さ
れ、それを先代及びお世話人さん達
が取りに行ったという話がありま
す。

この鐘についてもいろいろな伝承
があり、いつか皆様に披露したいと
考えて居ます。

ちなみに、横須賀不入斗郵便局の
スタンプには西来寺の梵鐘が描かれ
ています。凶案解説にある西来寺梵
鐘の高さは115センチとなつてい
て、実際の高さと少し違っているの
は面白いところです。



風景印 (不入斗郵便局)

NHK「心の時代」
NHK「ラジオ深夜便」
など出演の



前田専學先生が

報恩講にいらっしゃいます

報恩講

十月二十八日(火)

法要開始午後一時

講演開始午後二時十五分

終了午後四時

講題

ゴータマ・ブツダのこころ

前田先生は、パドマシユリ賞(イ
ンド国民栄誉賞)の日本での受賞
報告会で、駐日インド大使閣下が
「隠れた日本の宝」と評されたほ
どの、世界的なインド哲学の第一
人者です。

このような素晴らしい先生の講
演会が持てるのは西来寺にとつて
本当に奇跡に近い幸運です。多く
の方の心に残る、報恩講になるこ
とを確信しております。

【門徒 Q & A】

今年の報恩講演、テーマの

ゴータマ・ブツダ（お釈迦さま）って？

ゴータマ・ブツダは今から約二千五百年前、現在のネパール国のルンビニーで生まれました。幼名をゴータマシッダールタと言います。小さな国の王子であり、またその国はお米が良く取れたので、大変裕福であったと言います。

しかしゴータマ・シッダールタはその豊かな生活の中で「いのち」とは何なのか、様々な疑問を抱くようになります。ある時は小鳥についばまれる虫を見た時、またある時は今にも倒れそうな老人を見た時。その疑問は次第に大きくなってゆき、結婚をして息子をもうけた後こっそりとお城を抜け出し出家してしまいます。このとき二十九歳であったと言います。

二千五百年前、その当時のインドは商工業が栄えて、物資が豊になった時期でした。しかしその豊かさの中で出家する人々が多くなりましたと言います。物資が豊かになりましたが、

反対に人々の心は惑い、従来の物事に疑問を抱くようになったためです。ゴータマも最初はそのなかの一人でした。

ゴータマは様々な修行、思索を経て、人のあるべく道「法」を覚り、それを人々に説きました。この時から、覚りを開いた人を意味する「ブツダ」という言葉で呼ばれるようになりました。

子を失い半狂乱になった女性に、多くの裏切りにあい絶望する人々に、ゴータマは優しく語りかけます。正しく道を歩めるように。

その教えは、まるで母親が一人子にするような心暖かな「慈しみ」に満ちたものでした。

人は誰も苦悩します。大きな問題でも、小さな問題でも、悩みを持たずに生きてゆくことはできません。ゴータマの教えは、誰にとっても、ここに沁み入るものでした。そして、そのゴータマの説いた教えは広がっていきます。

ゴータマ・ブツダは旅の途中クシナガラで亡くなります。八十歳でした。旅の途中、村々を眺めながら

「この世は美しいものだし、人間の命は甘美なものだ」と述べたと伝えられています。

そして「もろもろの事象は過ぎ去るものである。怠ることなく修行を完成なさい」と言って亡くなりました。

今なぜ、ゴータマ・ブツダなのか

今を生きる私たちは、あまりにもたくさんの情報に、たくさんのものに包囲されています。その結果、ちよつと前の大切な出来事でさえ振り返る余裕すら持てません。手にはいつも携帯を持ち、人の顔を見るより画面を見ている時間の方が多い人さえいるでしょう。病院に行けばたくさんの検査や薬が待っています。街へ行けば色とりどりの金品が待っています。食べ物や町中にあふれかえっています。

では文明がこれほど進化し、寿命がこれほど延びた結果「こころ」はどうなったでしょうか。

一体何が大切なのか、人はどう生

きるべきか、何が幸せなのか、私たちは分かったのでしょうか。

ゴータマブツダの残した言葉を聞いて思います。二千五百年前と今と悩みは全然変わっていない。むしろ「豊かさの悲劇は貧しさの悲劇より尚深刻である」という言葉通りであるかもしれません。

現代の私たちは便利で豊かな生活を手に入れたつもりですが、それゆえにこれまでになかった新しい問題をいくつも抱えています。

いまこそ謙虚に原点に立ち返る時、忘れてはならない、しかし忘れがちな心に立ち返る時なのではないでしょうか。



西来寺の百日紅（さるすべり）8月19日撮影